

名古屋大学のみなさんの砂防現場見学

平成22年11月2日（火）名古屋大学農学部生物環境科学科3年生のみなさん（教員の田中准教授と小谷助教と学生さん34名）が多治見砂防国道事務所の砂防現場を見学されました。

生徒さんたちのレポートから一部抜粋してご紹介させて頂きましたが、今後、事業の実施にあたり貴重なご意見として参考にさせて頂きます。



①市之倉おりべ砂防ダムでの現場見学

建設の目的や地域性を活かした市之倉おりべ砂防ダムを建設したときの話などを、ご紹介させて頂きました。

＜学生さんの意見＞

○外観が堰堤らしくなく、もし自分の身近にあっても親しみを感じられると思いました。草むしりなどの環境整備をボランティアの方がされていると聞き、地元の方にも親しみがあるんだなと思いました。それでも、事務所で見たような土砂や何メートルもある岩を止める役割がある大切な堰堤であることも学びました。



②虎渓山山腹工（等高線壕工法）での現場見学

荒廃した里山にどのようにして緑を回復したか、を見学して頂きました。

＜学生さんの意見＞

○現場を訪れたときにこれはすごいと素直に思いました。以前のはげ山が壕を掘って通路を作ることによって見事に森林が再生していました。それに壕はそれ自体はただの溝なので費用もそんなにかからないように思えました。ただ残念に思ったのが、試験的に行われただけで、まだ普及しているとは言えないということです。



③事務所内会議室で砂防調査課長による砂防事業の説明



④川上流路工での現場見学

普段はなかなか見ることができない砂防工事現場に皆さん興味深げでした。



⑤四ツ目川遊砂工での現場見学

遊砂工内にある大きな石がモニュメントではなく、土石流によって流されてきた巨石であることに、皆さん驚かれました。

＜学生さんの意見＞

○四ツ目川遊砂工では危険のない期間に一般に公開できるよう公園としての機能を持たせていることに感心しました。しかし、立地条件もありますが、地域からの需要があり、公園としての機能を持たせよう計画しているのならばもう少し美しい景観を作り出し、地域住民がまた来たいと思わせるような試みをしたほうがいいのではないかとも思いました。

これから砂防について、詳しく勉強されることもあり、皆さんいろいろ熱心に質問したり、砂防の現場では精力的に見学されました。

今後もこのような現場見学会を開催していくので、学校関係者のみなさま方は、是非ご連絡ください！